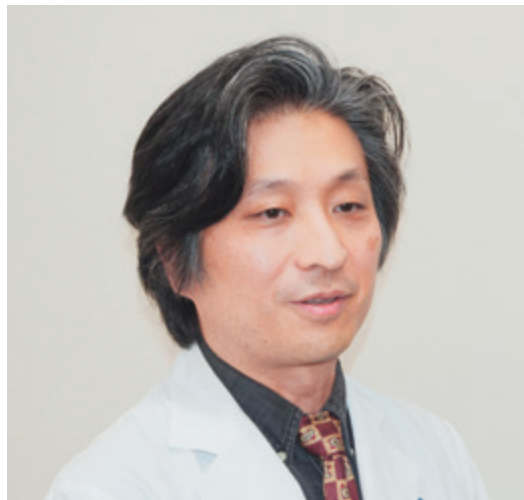


医療の未来をつくる全国からの声

診療所探訪



日本一の超高層ビルで、 患者さん一人一人と向き合う医療をめざす

2015年12月取材

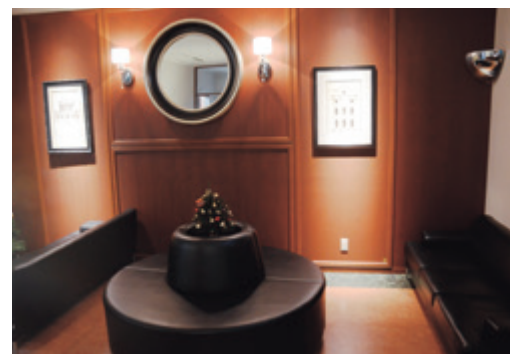
大阪府大阪市
中島アレルギー・呼吸器内科クリニック 院長

中島 宏和 先生

日本一の超高層ビル“あべのハルカス”のメディカルプラザには、交通アクセスに優れた立地を生かして専門科クリニックがそろっています。中島アレルギー・呼吸器内科クリニックは2014年4月、その一員として開業しました。院長の中島宏和先生は一人一人の患者さんと向き合う医療をめざしています。

待合室はホテルの内装などを参考に

中島先生は大学病院などで呼吸器やアレルギーの疾患を中心に専門医として活躍し、米国のメイヨー・クリニックで研究員を務めるなどキャリアを積みましたが、「病院の外来診療をする中で患者さんの話を十分に聞くことができていると実感することがあまりなく、一人一人じっくり話を聞いて対応したいと思い開業に至りました」と振り返ります。クリニックづくりでは、待合室をほっとできる空間にするため、ホテルの内装などを参考に木調でシックな印象となるようにしました。中島先生が患者さんとのコミュニケーションを充実させるだけでなく、待合室では患者さんと受付スタッフがゆったりと会話する姿も目立ちます。



中島先生は、建築士であり、現在は心理学者として大学で教鞭をとる奥様と協力し、待合室のレイアウトを考案しました。

メディカルプラザ内の連携が奏功



患者さんの多くは、同クリニックのホームページを見たのをきっかけに訪れているそうです。「高齢の方も自分に合ったクリニックを探して検索しています」と中島先生。

“あべのハルカス”のメディカルプラザが掲げる“専門医院の集合体”というコンセプトに共鳴して開業場所を決断した中島先生は、同プラザ内での医療連携を密にとっています。「例えば『胸が痛い』と当クリニックを訪れた患者さんは、レントゲンと心電図の検査で具体的な疾患は判明しませんでした。ただ、話の中で『片方の腕がしびれる』といった訴えがあり、狭心症の疑いがあると考え、同プラザ内の循環器科クリニックを紹介したところ不安定狭心症と診断され、別の病院に紹介され、数日内に手術を受けました」。数多くの方が来院する同クリニックですが、患者さんには特徴的な傾向があります。“あべのハルカス”のそばにある天王寺駅はターミナル駅で、奈良県や和歌山県からの通勤客が乗り換えで利用しており、電車で帰宅する頃には自宅近くの医療機関は診察時間が終わっているのでは来たという患者さんがとても多いそうです。

繁華街ならではの地域医療に貢献

同クリニックは同プラザで唯一、健康診断を行っており、“あべのハルカス”内の会社員の健康チェックを担うなど、繁華街ならではの地域医療にも貢献しています。そして、さまざまな検査に対応するために装置などを充実させました。開業してからの新たな取り組みとしては、中島先生自身の禁煙経験を生かして行われる禁煙外来があり、検査に不可欠な呼気中一酸化炭素濃度測定も実施しています。こうした体制整備について中島先生は、「患者さんが必要とする検査・治療は可能な限り全て行います」と強調します。今後の目標について尋ねると、「一人一人の患者さんの満足度を上げていくことが当面の目標です。私の説明不足で患者さんが納得していないケースは、患者さんの表情で分かります。期待して来院していただいているからには、自分が提供できる最善の医療を継続していきたいですね」という答えが返ってきました。



「“あべのハルカス”の高さは日本一ですが、気軽に受診できる当クリニックの敷居は低いです」と中島先生は言います。